

情報デザイン専攻

画像情報処理論及び演習I

**-デジタル画像の表現と応用-**

画像処理プログラミングの基礎

第4回講義  
水曜日1限  
教室6218情報処理実習室

吉澤 信  
shin@riken.jp, 非常勤講師  
大妻女子大学 社会情報学部

独立行政法人  
理化学研究所

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

今日の授業内容

[www.riken.jp/briect/Yoshizawa/Lectures/index.html](http://www.riken.jp/briect/Yoshizawa/Lectures/index.html)  
[www.riken.jp/briect/Yoshizawa/Lectures/Lec04.pdf](http://www.riken.jp/briect/Yoshizawa/Lectures/Lec04.pdf)

今日はプログラミングをやります！

- ① レポートについて.
- ② 演習: 入出力、2値化、多値化、Hue疑似カラー、ヒストグラム作成.

最初のレポートは↑の内容なので頑張ってくださいねー(^.^)

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

第一回レポートについて、

[www.riken.jp/briect/Yoshizawa/Lectures/Report01.doc](http://www.riken.jp/briect/Yoshizawa/Lectures/Report01.doc)

1. ↑のレポートをWindowsのWordか、LinuxのOpenOfficeで編集しPDF化.
2. ソースファイルや入出力画像と共にフォルダーに入れてzipファイルに圧縮し、zipファイルをwebから提出(切5/28).
3. 作成方法の注意点と提出方法は↓を参照してください.

[www.riken.jp/briect/Yoshizawa/Lectures/Report\\_ex.pdf](http://www.riken.jp/briect/Yoshizawa/Lectures/Report_ex.pdf)

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

第一回レポートについて、

1. みなさん、デジカメや携帯で撮ったオリジナルの画像をレポートでは使ってください.
2. ppm, pgmへ変換するには、convertを使います.例えば、  
「convert -quality 100 -compress none -comment "" input.bmp output.ppm」
3. bmpやjpgへ変換も同じで、  
例えば、「convert -quality 100 input.ppm output.bmp」

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

Ex01.zipの内容

Ex01.zipの内容: 共用: SimpleImage.h

グレースケール画像用:  
pgmio.h  
ex01.cxx

カラー画像用:  
ppmio.h  
ex01\_2.cxx

✓ 今後の全ての演習はこれらのファイル中のプログラム構造を雛形として使うので中身をよく見ておいてください.  
✓ カラー画像用ではImageクラスをR,G,B3つ使っているだけです.

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

演習4-1: カラーからグレースケールへの変換

[www.riken.jp/briect/Yoshizawa/Lectures/Ex01.zip](http://www.riken.jp/briect/Yoshizawa/Lectures/Ex01.zip)

1. カラー画像(ppm)を読み込んでR,G,Bの平均値を輝度値とするグレースケール画像(pgm)を保存するプログラムを作成せよ.
2. argvを使って、入力ファイル名、出力ファイル名を指定出来る事.
3. ヒント: ex01.cxxとex01\_2.cxx.
4. #include<stdlib.h>を忘れずに!

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

### 演習4-2: 閾値を用いた2値化

1. **pgm**画像を読み込み、閾値以下の輝度値を0、閾値以上の輝度値を255に変更した2値化画像(pgm)を作成・保存するプログラムを作成せよ。
2. argv, atoiを使って、入力ファイル名、出力ファイル名、**閾値**を指定出来る事。
3. ヒント: ex01\_02.cxxのコメントアウト部分。

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

### 演習4-2: ヒント

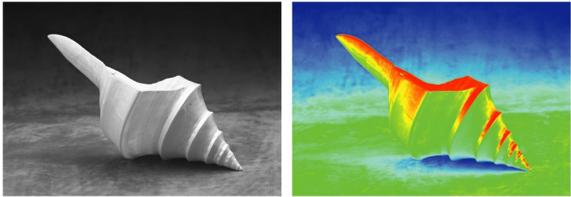
1. lena.pgmで閾値を64、96、128、160、192で実行した結果は以下の様になります。



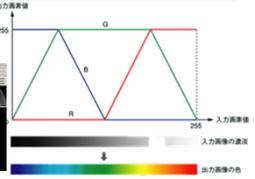
Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

### 復習: トーンカーブ (Tone Reproduction Curve) 12

✓ 疑似カラー(重要):



[a] 入力画像      [b] 出力画像 (疑似カラー画像)

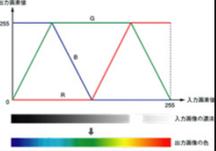


Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

### 演習4-3: Hue変換

1. pgm画像を読み込んでHue疑似カラー画像へ変換するプログラムを作成せよ。
2. argvを使って、入力画像ファイル名、出力画像ファイル名を指定出来る事。
3. ヒント: 入力の輝度値⇒HueのRGB変換用の関数を三つ用意する。

右のグラフと同様に色を変換する。



Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

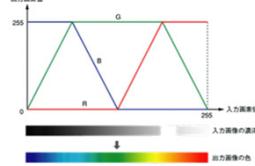
### 演習4-3: ヒント

$$\text{HueR}(x) = \begin{cases} 0 & 0 \leq x < 128 \\ (255/64)x - 510 & 128 \leq x < 192 \\ 255 & 192 \leq x \leq 255 \end{cases}$$

$$\text{HueG}(x) = \begin{cases} (255/64)x & 0 \leq x < 64 \\ 255 & 64 \leq x < 192 \\ -(85/21)x + (7225/7) & 192 \leq x \leq 255 \end{cases}$$

$$\text{HueB}(x) = \begin{cases} 255 & 0 \leq x < 64 \\ -(255/64)x + 510 & 64 \leq x < 128 \\ 0 & 128 \leq x \leq 255 \end{cases}$$

- ✓  $y = ax + b$ の連立方程式を解くと左の関数が導出出来る。
- ✓ 注意点: プログラム内で(255/64)などは浮動小数点(255.0/64.0)とする事。
- ✓ forの二重ループで変換し保存。



Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

### 演習4-3: ヒント

1. lena.pgmでそのままin->img[i][j]を変換したのが左、255.0-in->img[i][j]とネガポジ反転して変換したのが右の結果になります。



## 演習4-4: 統計

1. pgm画像を読み込んで輝度値の最大値、最小値、平均値、及び中央値を計算し表示するプログラムを作成せよ。
2. argvを使って、入力画像ファイル名を指定出来る事。
3. ヒント: 中央値は、輝度値の値を大きさでsortした場合に、N/2番目の値。ただしNは画素数。

## 演習4-4: ヒント

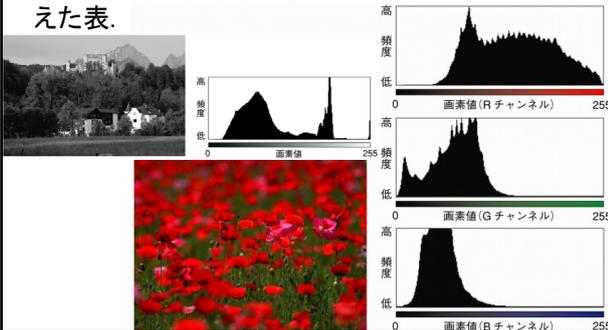
1. 中央値は画像をImage \*inとすると以下のようにstandard libraryを使うと簡単。
 

```
#include<algorithm>
#include<vector>
std::vector<double> val;
forの2重ループで
val.push_back(in->img[i][j]);
その後
std::sort(val.begin(),val.end());
double median = val[val.size()/2];
で計算。
```

lena.pgmの正解は、  
 最大値: 245  
 最小値: 26  
 平均: 124.604736...  
 中央値: 129

## 復習: ヒストグラム(Histogram)

- ✓ 画像の頻度表(ヒストグラム)とは量子化の階調毎に画像中の輝度値/カラー値が何画素あるかを数えた表。



## 演習4-5: ヒストグラム作成

1. pgm画像を読み込んで輝度値のヒストグラムを出力するプログラムを作成せよ。
2. argv, atoiを使って、入力画像ファイル名、出力ヒストグラムファイル名と**ビン**の数を指定出来る事。
3. ヒント1: FILE \*fp = fopen(出力ファイル名, "w"); fprintf(fp, "%d %d¥n", ビンのID, 頻度); fclose(fp);
4. ヒント2: int N = atoi(argv[3]); long \*hist = new long[N]; delete [] hist;
5. 表示はxmgrace or gnuplot.

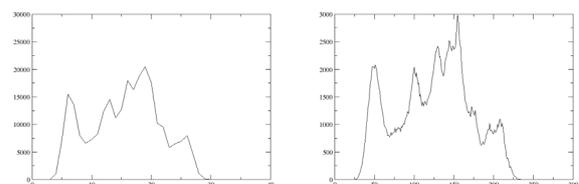
## 演習4-5: ヒント

1. ビンの数N、ヒストグラムの配列をlong \*hist. 入力画像をImage \*inとすると、for(i=0;i<N;i++)hist[i]=0;の後にforの二重ループ(iとj)で以下を計算。

```
double val = (in->img[i][j])/((double)(in->gray));
val *= (N-1);
int vali = ((int)(val));
if(val-((double)(vali))>=0.5)vali++;
if(vali>=N)vali=N-1;
hist[vali]++;
```

## 演習4-5: ヒント

1. lena.pgmの輝度値ヒストグラムです。ここでは、xmgraceを使ってグラフ化しました。ビンの数は32(左)と256(右)の場合です。



Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

## 次回の予定

1回 基礎  
2回  
3回  
4回 アフィン変換・補間  
5回  
6回  
7回  
8回 領域抽出  
9回  
10回  
11回  
12回  
13回 画像合成  
14回  
15回

**アフィン変換・画素値の補間**

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

# 復習: 参考資料

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

## レポート補足: gnuplot

- ✓ ヒストグラムのグラフ化方法: gnuplotというLinuxのコマンドを以下の様に使うと出来ます(xmgraceがインストールされてないので…).
- 1. 演習4-5ヒントにある様にfprintf()を用いて、x座標にビンのID(ビンの範囲の中央値などでもOK)、y座標に対応する頻度をテキストファイルにファイル名例えば **lena\_hist\_256.txt**として出力.
- 2. 授業のHPにあるHistogram\_Example.pltをダウンロード:  
[http://www.riken.jp/briect/Yoshizawa/Lectures/Histogram\\_Example.plt](http://www.riken.jp/briect/Yoshizawa/Lectures/Histogram_Example.plt)
- 3. emacsでHistogram\_Example.pltを編集.
- 4. 端末にて「gnuplot Histogram\_Example.plt」を実行.

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

## レポート補足2: gnuplot

- ✓ Histogram\_Example.pltは講義HPにある二つのヒストグラムデータをpng画像にする設定です. 編集方法は、ビンの数がN、ヒストグラムデータのファイル名がhist\_N.txt、出力したいpngファイル名をoutput\_hist\_N.pngとすると、

```
set xrange[0:256]
set output "lena_hist_256.png"
plot "lena_hist_256.txt" with boxes
```

```
set xrange[0:32]
set output "lena_hist_32.png"
plot "lena_hist_32.txt" u 1:2 with boxes
```

↑の部分以下を以下の様に編集すればOK.

```
set xrange[0:N]
set output "lena_hist_N.png"
plot "lena_hist_N.txt" u 1:2 with boxes
```

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

## 演習: Ex01.zip

1. [www.riken.jp/briect/Yoshizawa/Lectures/Ex01.zip](http://www.riken.jp/briect/Yoshizawa/Lectures/Ex01.zip)をダウンロードして展開してください.

**Firefox: 編集→設定→一般→ダウンロード→「ファイルごとに保存先を指定する」にチェックを入れてください.**

2. 端末で「g++ ex01.cxx」として実行ファイルa.outを作成後に「./a.out lena.pgm test.pgm」としてください. その後に「display test.pgm &」と「display lena.pgm &」を実行して同じ画像である事を確認してください.
3. 同様に「g++ ex01\_2.cxx」、「./a.out lena.ppm test.ppm」、「display lena.ppm &」、「display test.ppm &」として同じカラー画像である事を確認してください.

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

## ppmio.h: getPPM(), savePPM()

- ✓ 同様に、カラー画像は、#include "ppmio.h"の後で、getPPM()とsavePPM()を用いてppm画像の入出力が出来ます.
  - void getPPM(Image \*R, Image \*G, Image \*B, char \*filename)
  - void savePPM(Image \*R, Image \*G, Image \*B, char \*filename)
- ✓ ppmio.hと同様に、getPPM()を使う場合に変数R, G, Bは、以下の様にnewされている必要があります.
 

```
Image *R = new Image();
Image *G = new Image();
Image *B = new Image();
```
- ✓ delete R; delete G; delete B; でメモリ開放.